

多摩市立複合文化施設



パルテノン多摩 30年のあゆみ



PARTHENON
TAMA

TAMA CITY CULTURAL FOUNDATION



パルテノン多摩 30年のあゆみ

目次

パルテノン多摩 30年のあゆみ	2
1. 背景と目的	4
2. これまでの財団のあゆみ	5
3. 数字、図表でみる財団事業の推移	12
4. 事業と経営改革の成果	14
5. 財団の現状と課題	15

パルテノン多摩 30年のあゆみ

それは永き時の流れ
それは故郷の薫り
それは人と人のつながり
今ここに、文化の大輪が
花咲くことを願い、
一粒の種をまく

今から 30 年前の昭和 62 年 (1987 年) に多摩市立複合文化施設・パルテノン多摩の開館に際し、当時の臼井千秋市長より贈られた言葉が銘板として館の 2 階フロアに設置されています。

当時は日本最大のニュータウンとして多摩ニュータウンの開発が進行し、道路、公園、鉄道等の公共施設とともに住宅や学校等も盛んに建設され、全国から、夢と希望に胸ふくらませた多数の方々が移り住んできた時期でした。多摩センター地区に於いても、商業施設や多摩中央公園が新設され、当時計画に携わった方々の熱い情熱で、多摩センター地区のみならず多摩市のシンボルとして相応しい外観を持つ当館が建設され、文化の発展、振興、ならびに交流の拠点として開館しました。

過去 30 年間、パルテノン多摩ではオーケストラの定期公演をはじめ、演劇、ポピュラーミュージック、落語、映画等の公演を数多く手がけ、歴史ミュージアムでは多摩ニュータウンの歴史関連資料の常設展示や、地域に着目した多くの特別展示を実施してまいりました。さらには、成人式や長寿を祝う会をはじめ、多摩市での各種行事に使用され、小学校から大学まで各種合唱祭や音楽祭に利用され、多摩地区の公立ホールとして累計で約 1600 万人の方々にご来館いただきました。

また、平成 23 年 3 月の東日本大震災では、帰宅困難者の受け入れ施設として 1000 名を超えるの方々を受け入れ、多摩市及び多摩センター地区の中心施設として、公益的な役割も担ってきました。

パルテノン多摩の施設管理、貸館業務、文化事業を一貫して担わせていただいていた多摩市文化振興財団としては、財団主催事業だけではなく、共催事業や、市民団体との協働、多摩市及び多摩センター地域の活



性化も重要事業として位置づけています。市民団体との協働では、市民による各実行委員会の方々の多大なるご協力をいただきながら、さまざまな事業を展開してまいりました。

時代は流れ、社会も大きく変化しています。IT 技術の進歩、情報化や国際化は進み、人口減少社会の到来もささやかれています。多摩市や周辺地域では、少子高齢化による地域コミュニティの衰退が指摘されています。パルテノン多摩も 30 年の経過で施設の老朽化が進行しており、大規模改修の時期を迎えています。また、公共ホールの役割も変化しつつあるなか、「文化とは、文化振興の持つ意味とは」等々、本質も問い直されています。

文化芸術は「人が人らしく生きるための糧となるもの」です。日常生活のなかで、自然と人との関わりのなかで、また、風土のなかで生まれ、育まれる文化芸術は、心の安らぎ、生活に潤いを与えます。人の形成には欠

かす事のできない、人類共通の財産です。この大切な文化創造の拠点施設があるという事は地域の誇りです。パルテノン多摩は、いま、力強く咲かんとしている「文化の大輪」をさらに育て、絶やすことのないようにしてゆかなければなりません。

結びに、30 年の永きにわたり、ご支援、ご協力いただきました数多くの市民、来館者の皆様や財団に関与された多数の方々に御礼を申し上げます。そして、これから大規模改修を迎えるパルテノン多摩は、より広く市民ならびに来館者の支持がいただけるよう、絶えず、皆様のご意見をお聞きし、財団として、事業の見直し、財団改革を進めながら、次の 30 年、50 年に向けて努力をしまいる事をお約束し、「30 年のあゆみ」の冒頭の挨拶とさせていただきます。

平成 29 年 12 月

公益財団法人多摩市文化振興財団
代表理事 浪久 圭司



1. 背景と目的

多摩市立複合文化施設(パルテノン多摩)は平成 29 年で開館 30 年を迎え、開館とともに設立された多摩市文化振興財団は、その間、パルテノン多摩の管理運営をしながら、「多摩市における文化芸術振興を目的とした事業」や、「地域活性化、コミュニティ活動支援及び市民活動支援のための事業」、そして「市民のふるさと意識を育てる事業」を実施してきました。

開館当時の昭和 60 年代から平成初期にかけては国内で東京芸術劇場、水戸芸術館、文京シビックホール等のホール(劇場・音楽堂)が開館しました。多摩市近隣地域においては、パルテノン多摩開館以降、府中の森芸術劇場、調布市文化会館、八王子市南大沢文化会館、稲城市立 i プラザ、和光大学ポリホール鶴川、杜のホールはしもと、オリンパスホール八王子といった文化施設が開館していったことで、来場者が分散しつつあります。

この 30 年の間で、市の文化予算縮減や指定管理者制度導入に伴い、「経営能力の向

上」や、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律(劇場法)施行に伴い、劇場・音楽堂等に求められる「新たな役割への適応」が必要とされてきました。

また、都、公団、市により街づくりが進められた多摩ニュータウンが成熟するとともにパルテノン多摩の利用者層は高齢化しました。その一方で、多摩センター駅周辺エリアでは、近年、民間デベロッパーによるマンション開発が進み、パルテノン多摩近隣は、若いファミリー層が居住するエリアとなりつつあります。

設立から約 30 年が経過したパルテノン多摩は、機械設備等の老朽化への対応とともに、誰もが安心して利用できるバリアフリー化、そして新たな役割へ向けた大規模改修の計画が迫られています。

こうしたなか、財団においては、パルテノン多摩大規模改修後の運営を見据え、財団のあゆみを振り返るとともに、今後の課題を明らかにしていく事としました。

2. これまでの財団のあゆみ～多摩の文化を作り続けた 30年

財団法人多摩市文化振興財団(平成 22 年以降公益財団法人)は多摩市立複合文化施設(愛称・パルテノン多摩)の管理運営を通して、市民文化活動のより一層の向上及び文化振興のための事業を推進し、市民の自主的な文化活動の促進を図り、市民文化の創造に寄与するために昭和 62 年(1987 年) 3 月に設立。パルテノン多摩は財団が管理・運営する施設として、同年 10 月 31 日にオープンしました。

平成 18 年度からは新たに指定管理者として財団が受託して、その間、文化芸術に対する市民のニーズは多様化し、社会の状況も刻々と変化してきました。財団としては時代変化に対応し、新規事業にも取り組み、数々の改革と見直しを行ってきました。

■多摩の文化振興を担い出発 (昭和 62 年～平成 8 年)

昭和 62 年の設立以来、多摩市民と多摩センターに訪れる人々を対象とし、著名なアーティストを招へいしつつ、多彩な事業に取り組みました。また、パルテノン多摩とともにグリーンライブセンターや旧富澤家の施設管理も受託しました。グリーンライブセンターと旧富澤家の施設管理に関しては、平成 12 年に市へ移管しました。

昭和 62 年 3 月

多摩市文化振興財団設立

昭和 62 年 4 月

植物観察会開始

昭和 62 年 10 月～

多摩市立複合文化施設(愛称・パルテノン多摩)オープン
開館記念事業

『小澤征爾』率いる新日本フィルハーモニー交響楽団)、

「NHK 交響楽団」、「東京都交響楽団」、

『キース・ヘリング』と子どもたち展)、

「松竹大歌舞伎特別公演」、「『衣紋道』高倉家秘蔵展」等

小劇場フェスティバル(平成 17 年度まで)

多摩音楽週間(現代音楽公演、平成 10 年まで)

ミラクルラボ(平成 17 年度まで)

映画シネサロンシリーズ等(平成 17 年度まで)

劇団四季「ジーザス・クライスト＝スーパースター」等

市民協働事業「植物標本整理ボランティア」開始

市民協働事業「ツバメ・タンポポ調査」 実施



パルテノン多摩オープン前の様子 半田友英氏撮影



「キース・ヘリング」と子どもたち展



小劇場フェスティバル

昭和 63 年

野外演劇(野田秀樹演出)

海外オーケストラ公演

(ロンドンフィル、シュツットガルトフィル他)

松竹大歌舞伎、講座「江戸時代の多摩を探る」他

平成元年

企画展「写真で綴る多摩 100 年展」他

平成 2 年

サマーライブ(平成 4 年まで)

オペラ「サロメ」(新日本フィル 指揮:小澤征爾)

ニューイヤージャズフェスティバル

ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団演奏会

開館 3 周年記念展「ゴーギャンとナビ派の仲間たち」他

平成 3 年

企画展示「昆虫展」、平山郁夫展

多摩市制 20 周年記念事業「ZONE-The Alternative Art Scene-」、

アドベンチャースクール IN 北海道 他



平成 4 年 二大テント劇団激突水上公演
新宿梁山泊 / 唐組



平成 6 年 大階段での野外映画会

平成 4 年

開館 5 周年事業

「オペラ『コシ・ファン・トゥツテ』、

「二大テント劇団激突水上公演(唐組、新宿梁山泊)」

「諏訪内晶子ロシア国立交響楽団」

「年末年始オールナイトジャズ」

「展示『パルテノン神殿とアクロポリス』」他

平成 5 年

新日本フィル定期スタート(小澤征爾出演、平成 27 年度まで)

展示「多摩市の植物」、「日本の郷土玩具」他

平成 6 年

アテナクラブ発足

野外映画会(平成 24 年度まで)

「パスキンとエコール・ド・パリの異邦人たち展」

夏休みジュニア博物館(平成 11 年まで)

平成 7 年

サマーライブ 2 期目(平成 11 年度まで)

オペレッタ「チャルダッシュの女王」

企画展「メビウスの卵」(平成 16 年度まで) 他



平成 7 年 サマーライブ「チック・コリア」

■多彩な事業への挑戦（平成9年～平成17年度）

多彩な事業に取り組み、鑑賞型事業のみならず、市民参加型事業、市民協働事業を充実させました。また、市内広域での文化振興を図るためにアウトリーチ事業を開始しました。

平成9年

開館10周年事業

「カルミナ・ブラーナ」

「寺山修司の迷宮世界—100年気球メトロポリス」

「多摩国際交流版画展—ポーランド・日本—」

歴史講座開始



平成9年 寺山修司の迷宮世界
「100年気球メトロポリス」

平成10年

宮いつき展

企画展「多摩ニュータウン開発の軌跡」他

平成11年

ジャパン・チェンバー・オーケストラ発足(平成20年度まで)

常設展示室の改修工事と特別展示室の新設

平成12年

訪問コンサート(平成25年度から「音楽演奏家派遣事業」)開始

財団公式ホームページを開設

特別展「地域文化の源流」



ミュージックキャンプ楽器体験

平成13年

美術展「多摩市在住作家シリーズ」(平成16年まで)

企画展「聖蹟と鳥獣」他

平成14年

ミュージックキャンプ(平成18年度まで)

古文書講座開始 特別展「郊外行楽地の誕生」他

平成15年

特別展「落合白山神社の三匹獅子舞」

写真展「多摩ニュータウン今昔」他

平成16年

特別展「武蔵国一之宮」、美術展「江田 豊」他

市民協働事業「古文書解説ボランティア」開始

平成17年

ミラクルラボ閉室

特別展「多摩の里山～「原風景」イメージを読み解く」

多摩市教育委員会共同企画展「大栗川・発掘物語」他



特別展「落合白山神社の三匹獅子舞」

■ 指定管理者として経営改革を推進 (平成 18 年度～平成 22 年度)

指定管理者制度導入を契機として、経営改革に取り組み、事業整理をおこない、指定管理料を削減しつつ、近隣の他文化施設との差別化を図り、多摩センターのまちを特徴づける野外事業を充実させました。

平成 18 年

指定管理者としてパルテノン多摩と多摩中央公園駐車場の
管理運営受託(5年間)

まるごと 1 日おもしろ体験

(現在「Poco Poco Festa」として継続実施)

多摩くらし体験クラブ開始

特別展「関戸合戦」他

市民協働事業「多摩くらしの調査団」開始



平成18年 新日本フィルハーモニー交響楽団
指揮:小澤征爾

平成 19 年

開館 20 周年記念事業

「市民参加企画事業(『多摩の万葉時代』他)」

「薪能」

特別展「村医者と医者村」

美術公募展(平成 23 年度まで隔年実施)

市民協働事業「定点撮影プロジェクト」開始



平成21年 キッズファクトリー
「たまごを使って絵の具を作ろう」

平成 20 年

8 月集中豪雨による館内浸水

特別展「多摩のどうぶつ物語」他

学芸員によるアウトリーチ活動開始

平成 21 年

キッズファクトリー開室

野外ステージプロジェクト(平成 25 年度以降は「多摩 1 キロフェス」)

特別展「開発の記録」他

平成 22 年

公益財団法人として再出発(平成 22 年 3 月認可)

9 月集中豪雨による館内浸水

小澤征爾、健康上の理由により休演

野外演劇「阿呆船」

キッズイルミネーション(平成 24 年度まで)

特別展「多摩・商店ことはじめ」

3 月 11 日東日本大震災(自主事業の中止、延期。帰宅困難者受入)



平成22年 演劇「阿呆船」

■指定管理第2期、第3期での財団改革（平成23年度～平成28年度）

前期で課題として浮彫となった人事労務改革に取り組み、指定管理料を削減しつつも、各種メディアに取り上げられる話題性やオリジナリティ溢れる事業を実施しました。そして社会包摂に向けた事業展開を開始。こうした取組みが文化庁より評価され、多摩地域で最も高額な補助金を獲得。また、パルテノン多摩大規模改修を見据えつつ、PFI民間提案や施設老朽化の現況報告、改修提案を市に向けて実施。東日本大震災を契機に、被災地への職員派遣や、防災に関する新たな取組みをおこないました。

平成23年

第2期指定管理スタート(平成27年度まで5年間)

ライブハウス事業スタート

文化財レスキューに学芸員派遣

特別展「聖地をめぐる行者と庶民」

マジックサウンドルーム「多摩のオルゴールを作ろう！」他

平成24年

開館25周年記念事業「『つながる』をテーマとした25事業」

特別展「多摩ニュータウン植物観察記」

企画展「多摩ニュータウン建設と重機」



平成23年 ライブハウス多摩音楽洞
庄野真代・ミスティ・ナイト



平成24年 開館25周年記念事業



平成25年 劇団四季公演

平成25年

多摩1キロフェス開催

(平成28年度から「パルTAMA フェス in 多摩センター」)

企画展「谷戸のおはなし」「調布玉川惣画図の旅」

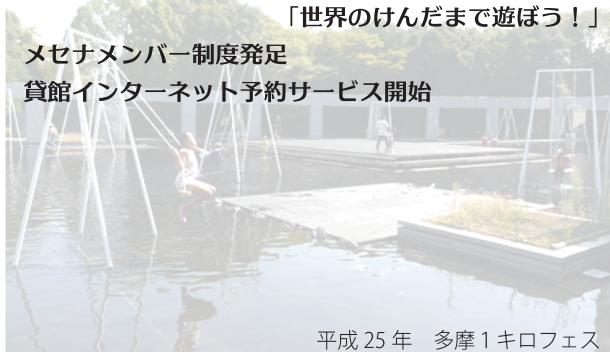
マジックサウンドルーム「多摩の技術と自動演奏楽器」

キッズファクトリー交流プロジェクト

「世界のけんだまで遊ぼう！」

メセナメンバー制度発足

貸館インターネット予約サービス開始



平成25年 多摩1キロフェス

平成 26 年

特別展「みゆきのあと」を宮内公文書館と共催
 「アニメーションと多摩」開催
 開館以来の展示事業入場者数の最高を記録
 マジックサウンドルーム「自動演奏楽器と観るサイレントムービー」
 広報誌パルテノン多摩 NEWS のポスティング配付開始
 労務・人事制度の改革
 職種統合・昇任試験・人事評価制度・退職金制度
 見直し等を実施



平成 27 年

特別展「多摩の谷戸と農のいとなみ」
 企画展「定点撮影プロジェクト 多摩ニュータウンの移り変わり」
 4 階廊下での廻廊展示を開始
 マジックサウンドルーム「オルゴール・オルガンストリート」他
 キッズファクトリー 市民講師による「和紙人形クラブ」他
 パルテノン多摩および多摩中央公園大規模改修に関する
 P F I 民間提案を民間事業者と連携して市へ実施
 市と「帰宅困難者受入に関する防災協定」締結



読売日本交響楽団/パルテノン名曲コンサート
 指揮：小林研一郎



演劇人の文化祭

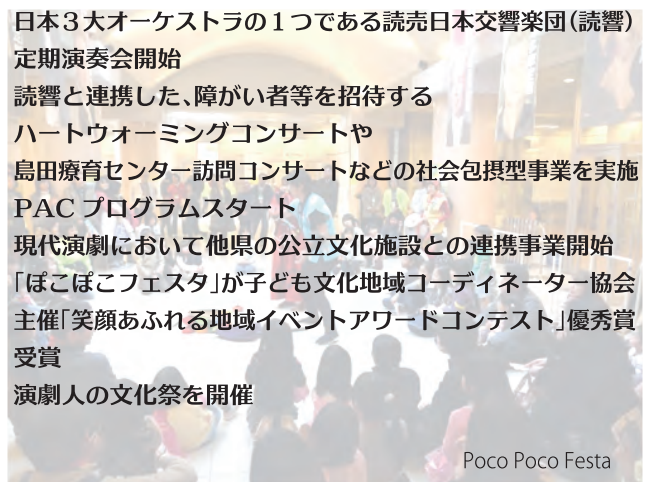
平成 28 年

第 3 期指定管理スタート(平成 29 年度までの 2 年間)
 文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業」補助金を初めて獲得
 (1937 万円)

日本 3 大オーケストラの 1 つである読売日本交響楽団(読響)
 定期演奏会開始
 読響と連携した、障がい者等を招待する
 ハートウォーミングコンサートや
 島田療育センター訪問コンサートなどの社会包摂型事業を実施
 PAC プログラムスタート
 現代演劇において他県の公立文化施設との連携事業開始
 「ぼこぼこフェスタ」が子ども文化地域コーディネーター協会
 主催「笑顔あふれる地域イベントアワードコンテスト」優秀賞
 受賞
 演劇人の文化祭を開催



街で遊ぼう!プロジェクト



Poco Poco Festa

■市民文化活動の支援

開館以来市民の文化活動を支援する事業を順次、拡大充実させており、現在は以下の市民活動支援を実施し、多様な市民文化を振興する一翼を担っています。

【芸術関係の市民活動】～身近な場所で感動体験を～

ブラスフェスタ

三多摩童謡ファミリーコンサート

多摩市合唱祭

多摩市民第九演奏会

多摩シネマフォーラム

多摩シティ・全国バレエコンクール

多摩ユースオーケストラ

東日本大震災復興支援チャリティコンサート

民話を訪ねて・・・多摩の里

アイネ・クライネ・コンツェルト

多摩管弦楽団

多摩市民第九演奏会

日本クラリネットコンクール

サクソフーンフェスティバル

アースビジョン 等



三多摩童謡ファミリーコンサート



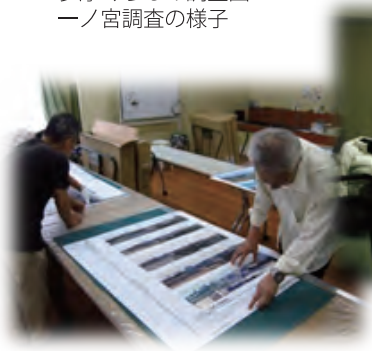
多摩くらしの調査団
一ノ宮調査の様子

【博物館関係の市民活動】～多摩の自分、くらし、文化をつなぐ～
多摩くらしの調査団

定点撮影プロジェクト

古文書解読ボランティア

植物標本整理ボランティア



定点撮影プロジェクト
展示準備の様子



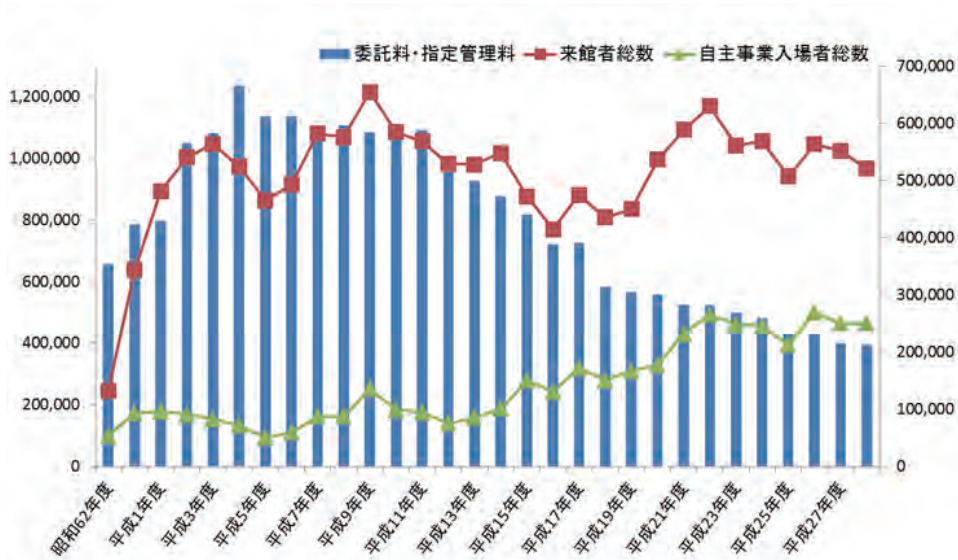
古文書解読ボランティア
解読作業の様子



植物標本整理ボランティア
標本作りの様子

3. 数字、図表でみる財団事業の推移

項目	昭和 63 年度	平成 18 年度	平成 28 年度
事業数	55	90	145
市委託金・指定管理料 (千円)	785,000	582,521	395,000
職員数 (市派遣職員)	20 (18)	19 (5)	14 (2)

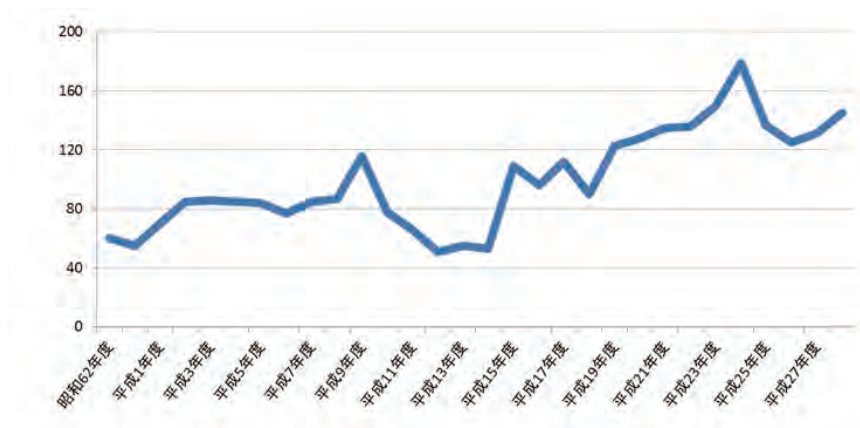


来館者総数(※) (昭和 62 年度から平成 28 年度まで)	約 1,539 万人
自主事業入場者総数	約 427 万人

(※) 貸館利用者総数と 自主事業入場者総数 の合計

年度	指定管理料	備考
平成 18 年度	5 億 8,252 万円	第 1 期指定管理初年度
平成 23 年度	4 億 9,700 万円	第 2 期指定管理初年度
平成 27 年度	4 億円	第 2 期指定管理最終年度
平成 28 年度	3 億 9,500 万円	第 3 期指定管理初年度
平成 29 年度 (予定)	3 億 8,000 万円	第 3 期指定管理最終年度

事業数の推移



総事業数 (昭和 62 年度から平成 28 年度まで)	2,989 事業
---------------------------------------	-----------------

[常設展示室等来館者総数] (昭和 62 年度から平成 28 年度まで)

常設展示室 (歴史ミュージアム)	約 84 万人
キッズファクトリー (ミラクルラボを含む)	約 30 万人
マジックサウンドルーム	約 24 万人
総数	約 138 万人



4. 事業と経営改革の成果

財団は30年間にわたり地域の文化振興の拠点として、様々な文化活動を実施してきたほか、市民の文化活動を支援してきました。また、パルテノン多摩は市内の小中学校、高校、大学等の合唱祭や公演等、ピアノ教室やバレエ教室等の発表会に利用され、青少年の発表の場として利用されてきました。財団としては、引き続き「地域（まち）に元気を届ける」取り組みを実施してまいります。

【成果 1】

昭和62年から今日まで約3千近くにのぼる数多くの自主事業・提携事業を実施し、クラシック音楽公演や演劇公演、伝統芸能、映画等の多彩な事業を実施し、のべ約1,500万人の来館された方々が文化にふれる機会を数多く提供し、文化振興に寄与してきました。

【成果 2】

地域特性に着目した特別展示を実施し、多摩や多摩ニュータウンの歴史・地理・自然などを学び、知り、気づく機会を博物館機能として提供し、約80万人の多数の来館者を迎え、地域への愛着を育んできました。

【成果 3】

市民活動を支援してきたほか、市民ボランティアや市民団体と協働し、数多くの事業を実施することで、多摩ニュータウン設立当初、希薄であった市民コミュニティ作りの一翼を担ったほか、市民の生きがいづくりに寄与しました。

【成果 4】

学芸員の学校での出前授業、コミュニティセンターへの音楽演奏家派遣や展示に関するアウトリーチを実施し、パルテノン多摩のみならず多摩市全体における文化活動を支援してきました。

【成果 5】

多摩センター地区での野外イベントを主催し、また、「多摩センター地区連絡協議会」の一員として地域で開催されるイベントに協働したことで、多摩市および多摩センター地区の活性化に寄与してきました。また、地域防災行事に協力し、東日本大震災時には帰宅困難者の一時滞在場所として役割を果たし、地域の防災拠点としても貢献しました。

【成果 6】

パルテノン多摩公式ホームページ開設、施設利用予約システム導入、チケット予約システム導入など、情報技術の進展に合わせて市民サービス向上に努めてきました。

【成果 7】

事業の見直しとともに雇用制度をはじめとした組織改革を進め、効率的かつ、自立した組織運営を目指しつつ、市から支出される委託料や指定管理料の削減に寄与しました。

【成果 8】

昭和62年から今日まで毎月休館日を設け定期点検を実施し、安心、安全な施設管理に努め、東日本大震災時を除き公演中止や順延等や来館者等の大きな事故は発生していません。

5. 財団の現状と課題

財団は平成 22 年 3 月に東京都より公益認定を受け公益財団法人に移行し、平成 23 年度にはパルテノン多摩の指定管理者として業務の委託を受け、新たなスタートを切っています。財団としては新たなスタートの中で利用者サービスのより一層の向上、雇用制度の見直し、事業の見直しを実施してきましたが、時代と多摩のまちが大きく変化してきた現状から、より高い専門性と地域との密接な連携強化が求められています。また、限られた財源を効率的に活用するとともに自主財源確保の取り組みもより重要となっています。現在の財団が直面する具体的な課題として以下の 4 つが挙げられます。

【課題 1】 時代の変化への対応

- ・多摩市第 5 次総合計画で定めた将来都市像「みんなが笑顔いのちにぎわうまち多摩」の目指す都市像の実現のために、財団として、より地域との結びつきを深め、文化・芸術活動の取り組みを推進し、文化・芸術とともに多摩地域を知る事業と今までパルテノン多摩へ来館した事のない方々への事業展開が求められています。
- ・多摩市が持続的に発展をつづけ、多くの人々が訪れる多摩市、文化の香る多摩センターであるように、市民と協働して文化芸術活動、博物館事業を展開していく方向が求められています。
- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えて、国や都、市と連携した事業展開が必要です。
- ・大規模改修後を見据えて多摩センター地区の公共施設として地域の拠点としての新たな機能や地区の活性化により寄与する事業展開が求められています。

【課題 2】 事業の改革

- ・子どもから高齢者、障がいのある方々まで様々な境遇で暮らす市民が文化芸術の力で心の安らぎと明日への活力と元気が得られる事業の展開を実施していくことを目指す必要があります。
- ・将来を担う子ども達が文化芸術の素晴らしさを体験する機会を充実するとともに、多摩を知る活動の拠点となり地域の活性化に寄与することが必要です。
- ・多摩市内の文化資源、歴史財産を市とともに活用することが必要です。
- ・毎年各事業を評価検討し、改革を継続していくことが必要です。
- ・様々な情報発信が可能となり、I T 技術の発展にあわせ、これらに適した広報活動が求められています。

【課題3】 自立した組織運営に向けた人材の育成

- ・文化芸術事業や博物館機能の強化のため、外部からの人材登用も含めて必要な人材確保と、財団職員の専門性を高める人材育成が必要です。
- ・長年の事業で培ってきた知識や、市民団体や他館とのネットワークを将来にわたり継承させる必要があります。
- ・施設管理についても専門性を持ち、経験を積めるよう人材養成が必要です。
- ・市派遣職員を減らして、財団固有職員で運営ができる長期的な視点での人材養成が求められています。

【課題4】 より多くの市民からの信頼を獲得

- ・多額の税金を文化へ投資することの意義が問われているなか、来館者、利用者はもとより、未利用者の声にも真摯に向き合い、財団運営についても意見を反映できるよう、理事会、評議員会とは別の市民及び市民団体等と協働した新たなしくみが必要です。
- ・財務体質を強化し、魅力ある事業を将来にわたり継続するため、国、都等の補助金の導入、企業、大学協賛制度の拡充、より高い収益事業の実施など具体的取組を検討する必要があります。
- ・情報公開の推進とともにコンプライアンス（法令遵守）の徹底や個人情報の保護、管理の徹底、厳正な職務執行が求められています。



社会年表

		パルテノン多摩	社会	内閣
1987	昭和62年	3月多摩市文化振興財団設立 10月パルテノン多摩オープン 小劇場フェスティバル開始(平成17年まで)	4月国鉄分割民営化	中曽根康弘から11月竹下登へ
1988	昭和63年			
1989	平成01年		1月昭和天皇崩御 4月消費税3%開始	6月宇野宗佑 8月海部俊樹
1990	平成02年	サマーライブ(平成4年まで)	10月東西ドイツ統一	
1991	平成03年	サロンコンサートシリーズ開始(120回まで)	バブル崩壊	11月宮澤喜一
1992	平成04年			
1993	平成05年	新日本フィル定期開始(94回まで)	12月欧州連合EU誕生	8月細川護熙(非自民)
1994	平成06年	アテナクラブ発足		4月羽田孜(新生党) 6月村山富市(日本社会党)
1995	平成07年		1月17日阪神大震災 3月地下鉄サリン事件	
1996	平成08年			1月橋本龍太郎(自民党)
1997	平成09年	10周年事業	消費税5%	
1998	平成10年	企画展「多摩ニュータウン開発の軌跡」	2月長野オリンピック開催	7月小淵恵三(自民党)
1999	平成11年	ジャパン・チェンバー・オーケストラ発足(16回まで)		
2000	平成12年	訪問コンサート開始 ホームページ開設	6月三宅島噴火	4月森喜朗(自民党)
2001	平成13年		1月中央省庁再編22省が12省へ 9月11日アメリカ同時多発テロ	4月小泉純一郎
2002	平成14年	古文書講座開始		
2003	平成15年			
2004	平成16年	古文書解読ボランティア発足	4月営団地下鉄が東京メトロへ	
2005	平成17年	国際クラリネットフェスト2005開催 ミラクルラボ閉室	愛知万博開催(3/25~9/25) 10月郵政民営化	
2006	平成18年	財団が指定管理を受ける		9月安倍晋三
2007	平成19年	20周年事業	9月リーマンショック	9月福田康夫
2008	平成20年	多摩くらしの調査団ボランティア発足		9月麻生太郎
2009	平成21年	キッズファクトリー開室		9月鳩山由紀夫(民主党)
2010	平成22年	公益財団法人化		6月菅直人(民主党)
2011	平成23年	第2期指定管理(5年間)	3月11日東日本大震災	9月野田佳彦(民主党)
2012	平成24年	25周年記念事業 ミュージックサロン・シリーズ開始	5月東京スカイツリー開業	12月第2次安倍晋三
2013	平成25年	多摩1キロフェス開催 メセナメンバー制度導入 貸館ネット予約開始		
2014	平成26年	特別展「アニメーションと多摩」	4月消費税8%	12月第3次安倍晋三
2015	平成27年	4階廊下廻廊展示 読響名曲シリーズ開始		
2016	平成28年	PAC事業スタート ハートウォーミング・コンサート2016	7月小池百合子新都知事	
2017	平成29年	避難訓練コンサート開催		11月第4次安倍晋三

パルテノン多摩 30年のあゆみ

発行日 2017年12月15日
 編集・発行 公益財団法人多摩市文化振興財団
 〒206-0033
 東京都多摩市落合 2-35
 Tel. 042-375-1414 Fax. 042-376-9191
 ホームページ <http://www.parthenon.or.jp/>